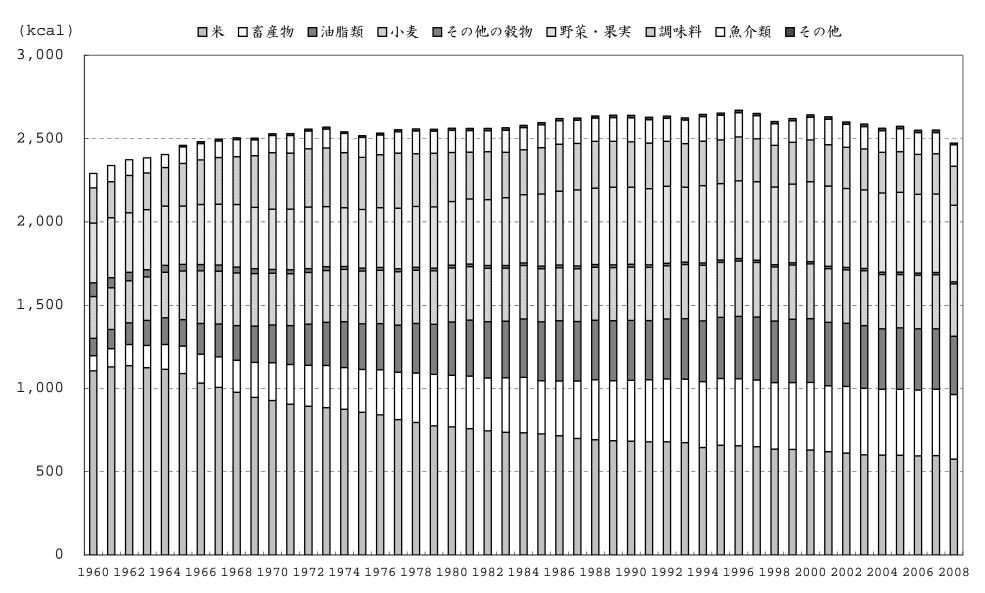
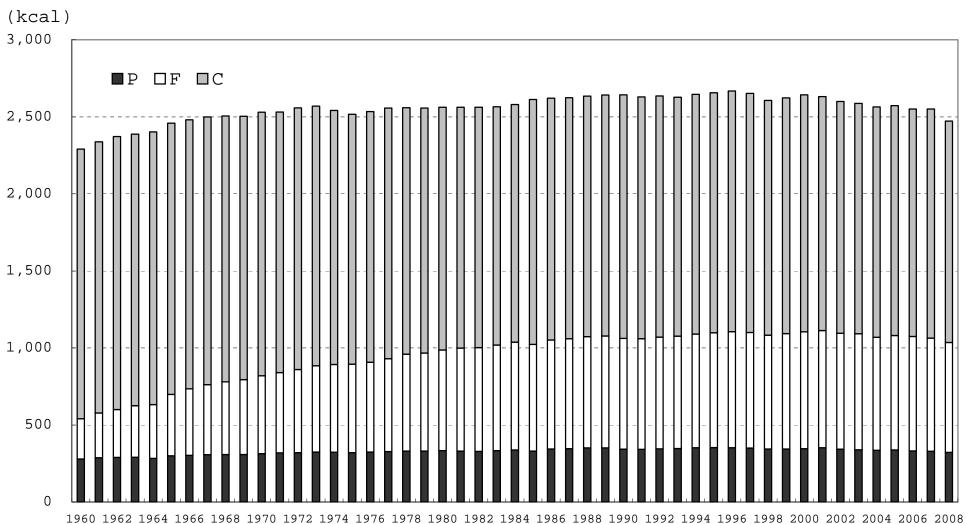
2010「食料経済学」(図表)



資料:農水省総合統計局『食料需給表』

図1 1人1日当たり品目別供給熱量(1960~2008年度)



1960 1962 1964 1966 1968 1970 1972 1974 1976 1978 1980 1982 1984 1986 1988 1990 1992 1994 1996 1998 2000 2002 2004 2006 200 資料:農水省総合統計局『食料需給表』

図2 PFCバランスの推移 (1960~2008年度)

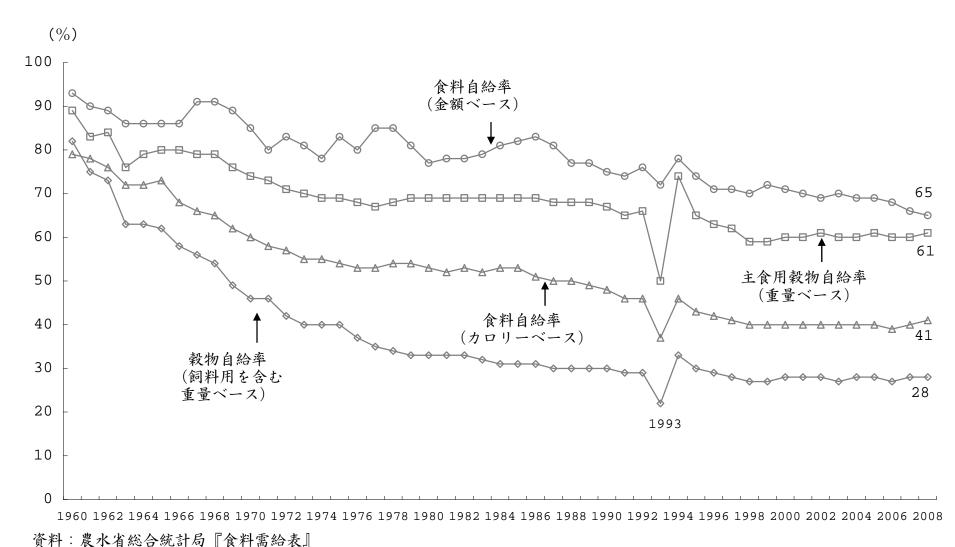
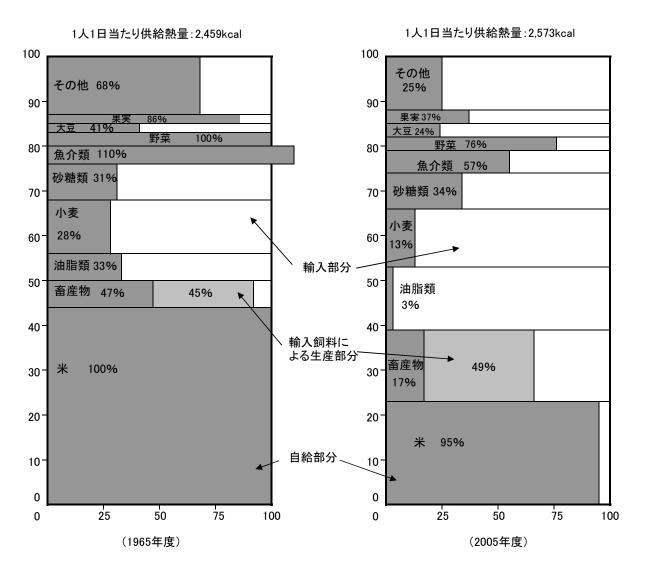


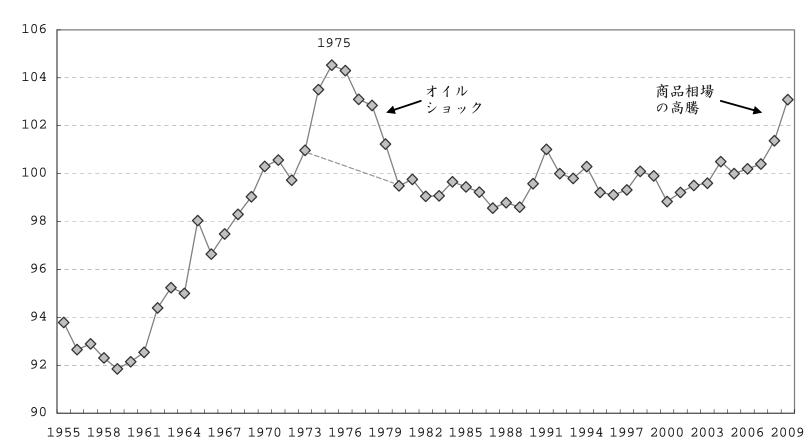
図3 各食料自給率の推移(1960-2008年度)



資料:農水省『食料・農業・農村白書』

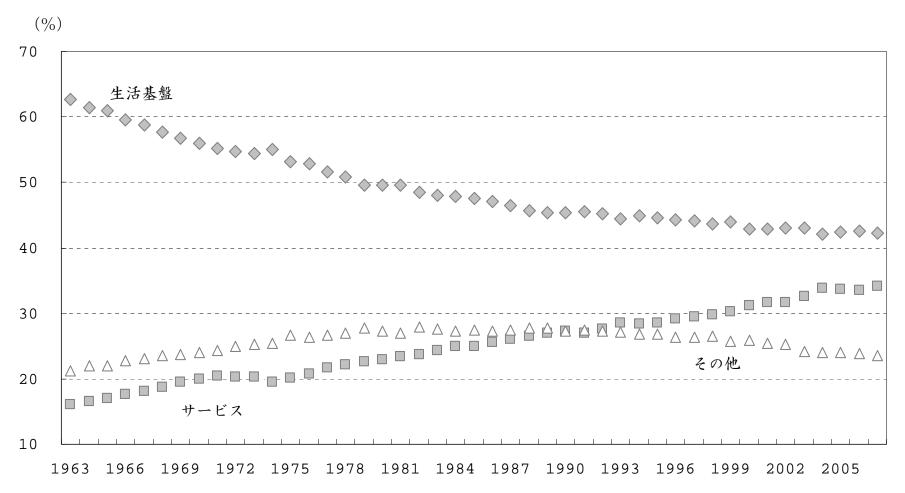
図4 品目別自給率 (供給熱量ベース)





資料:総務省統計局『消費者物価指数』(2005年基準) 実質食料価格指数=食料価格指数÷消費者物価総合価格指数(持家の帰属家賃を除く)

図5 実質食料価格指数 (1955~2009年, 2005年=100)



資料:総務省統計局『家計調査』 (全国·勤労者世帯)

生活基盤:食料,住居,光熱・水道,家具・家事用品,被服及び履物支出の合計

サービス:保健医療,交通・通信,教育,教養娯楽支出の合計

図6 家計の生活基盤とサービスの支出割合(1963~2007年)

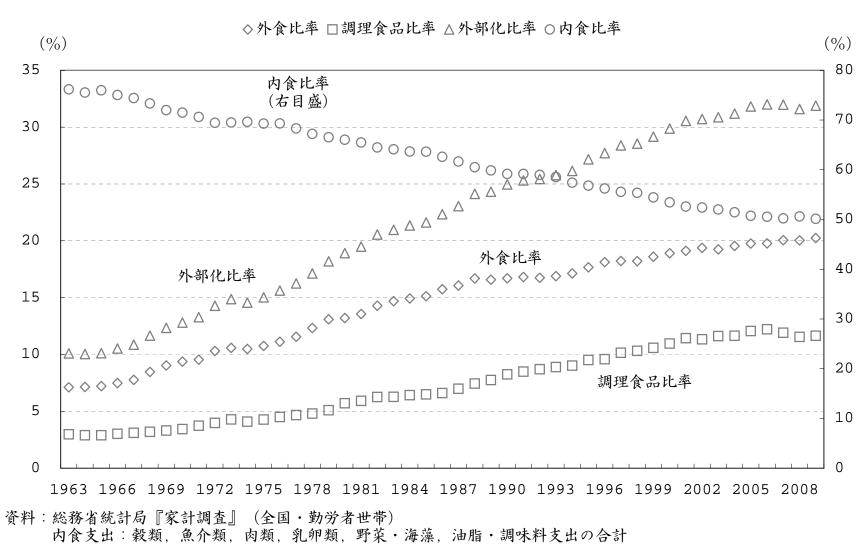


図7 「食の外部化」指標(支出割合:1963~2009年)

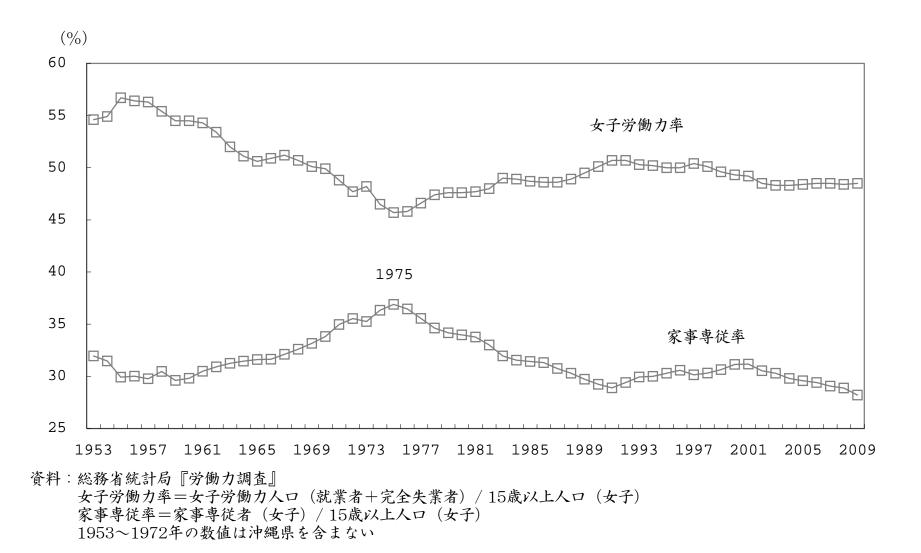


図8 女子労働力率と家事専従率(1953~2009年)

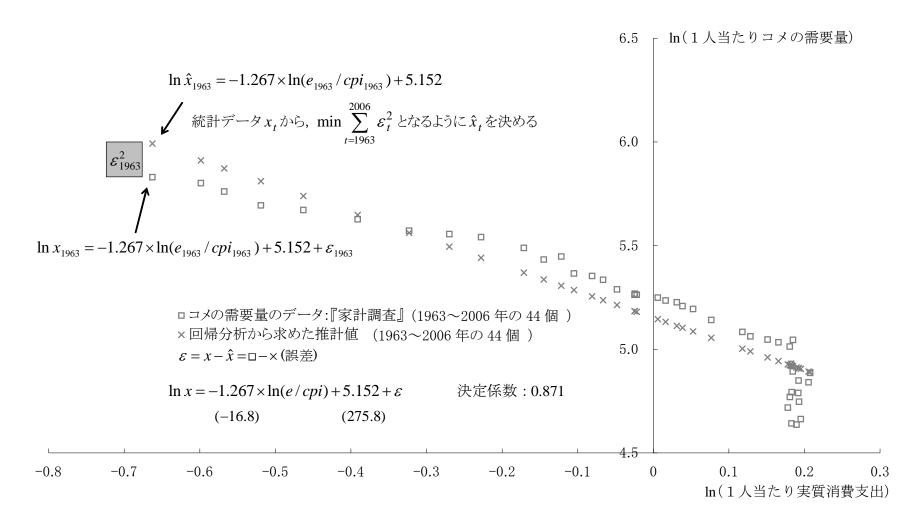


図9 回帰分析:コメ需要の所得弾力性を求める

 $\ln(1$ 人当たりコメの需要量) = $a\ln(1$ 人当たり実質消費支出)+b

図10穀物+大豆の行方

穀物類の供給量

穀物(とうもろこし以外)

1,260,297,920t のうち

粗食料

66.0%

食品加工用

2.7%

飼料用

21.0%

とうもろこし

651,480,322t のうち

粗食料

17.9%

食品加工向用

10.7%

飼料用

63.6%

大豆

192,327,610t のうち

粗食料

5.6%

食品加工用

84.5%

飼料用

4.1%

2,104,105,852t (穀物+大豆のみ) 2,761,750,941t (粗飼料を含む)

資料: FAO, FAOSTAT (2003年)

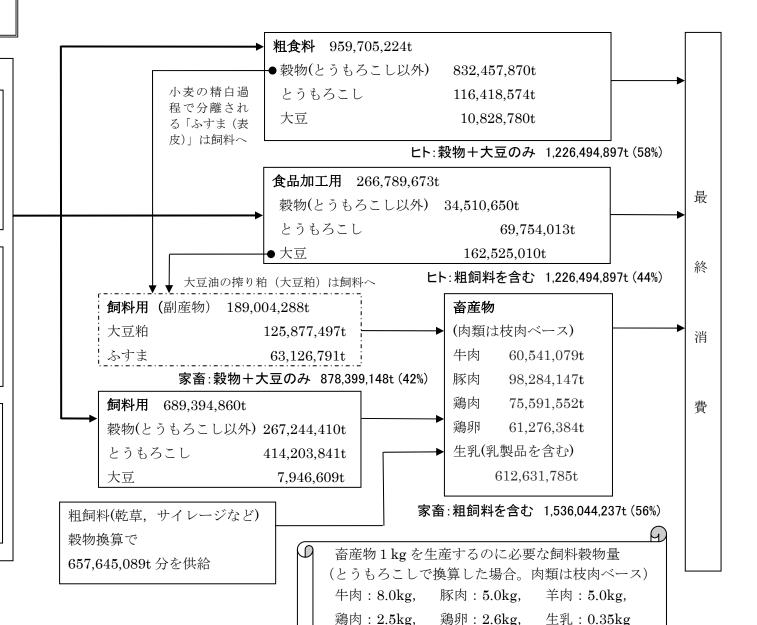


図 11 小麦の仕向先

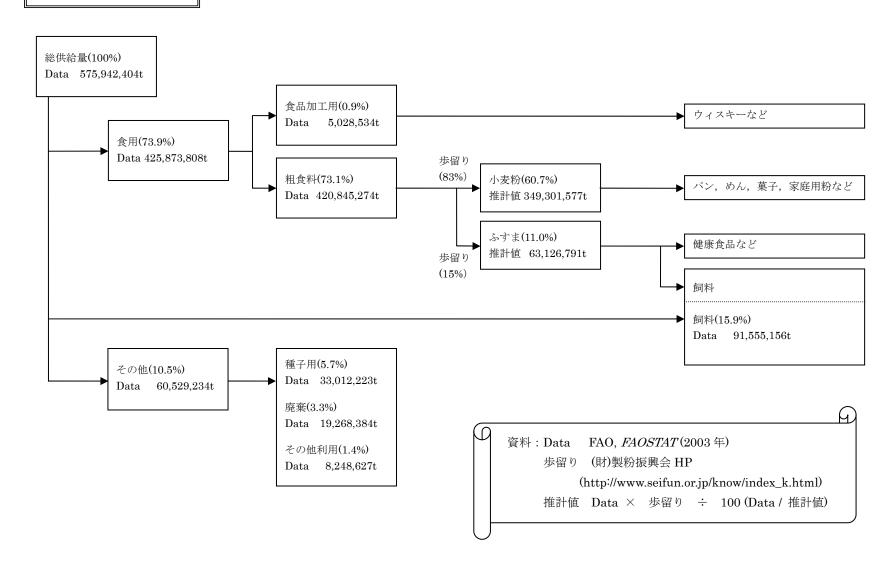


図 12 とうもろこしの仕向先

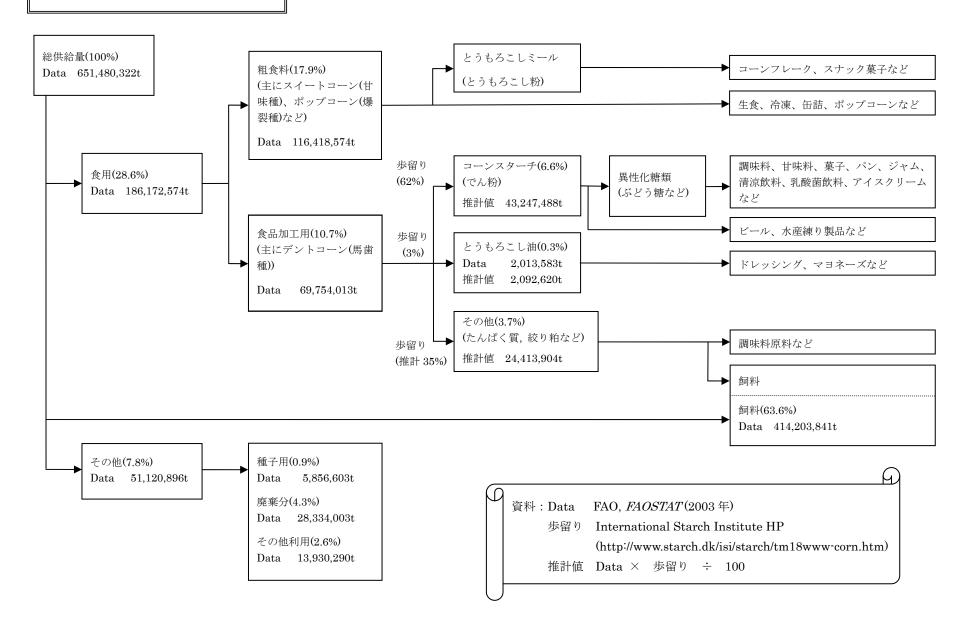
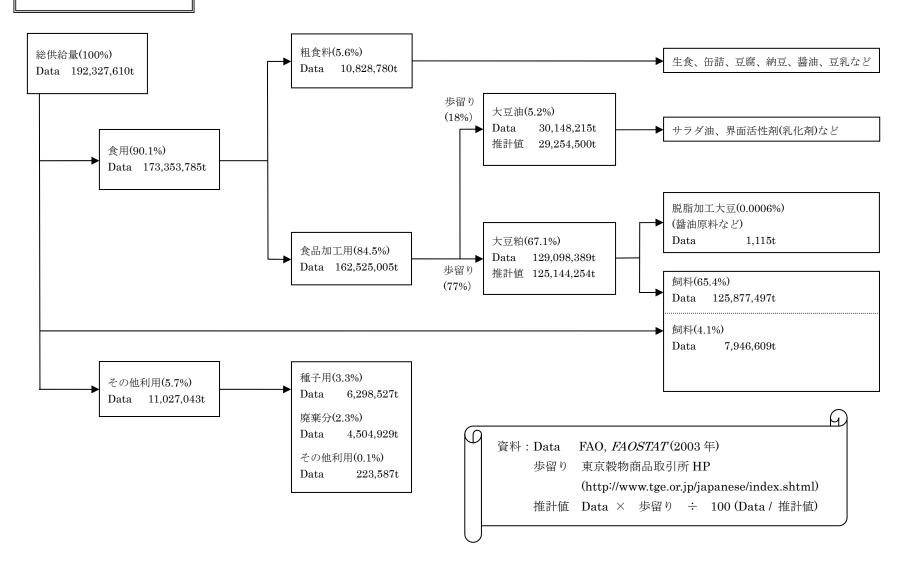
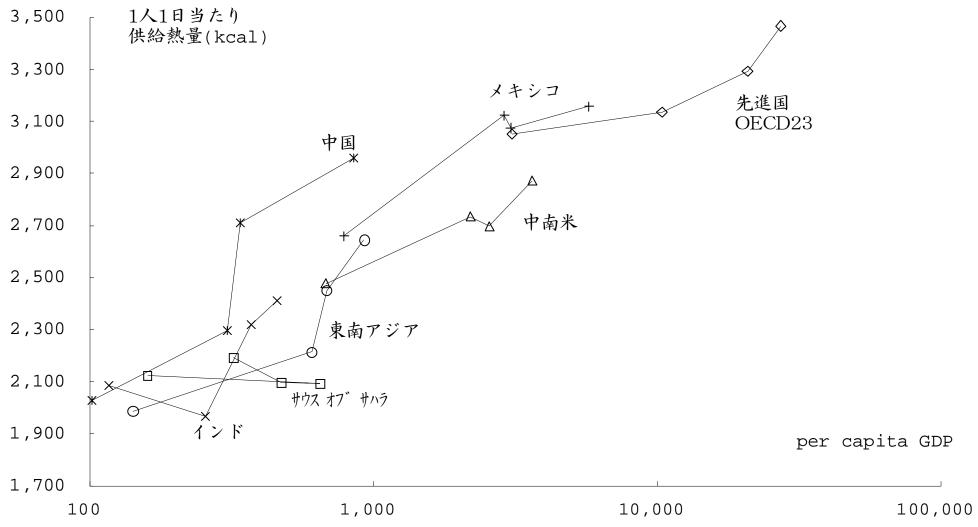


図 13 大豆の仕向先





資料: UNSD, UNSD Statistical Database FAO, FAOSTAT

図14 供給熱量とGDPの推移(1970-2000)

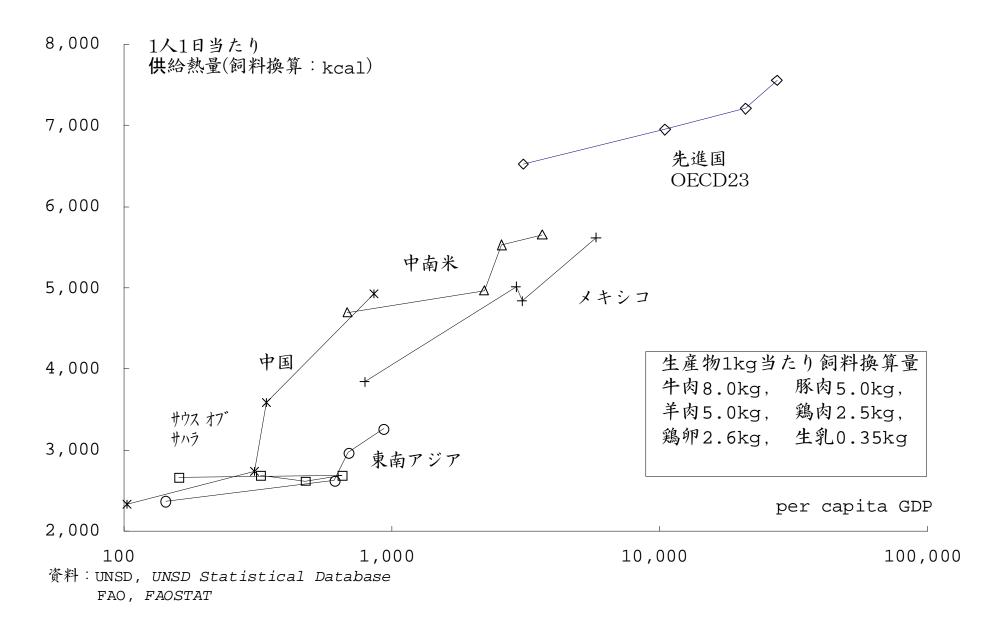
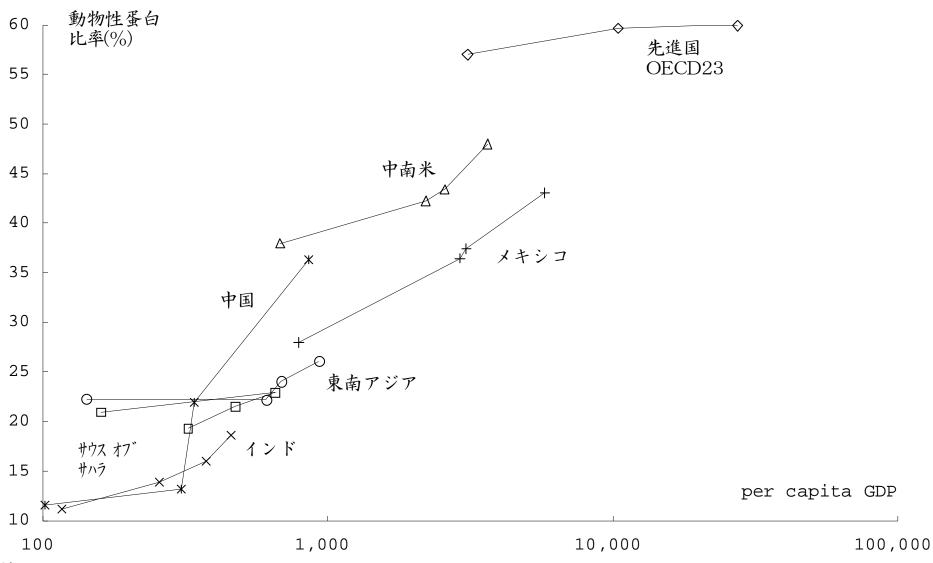
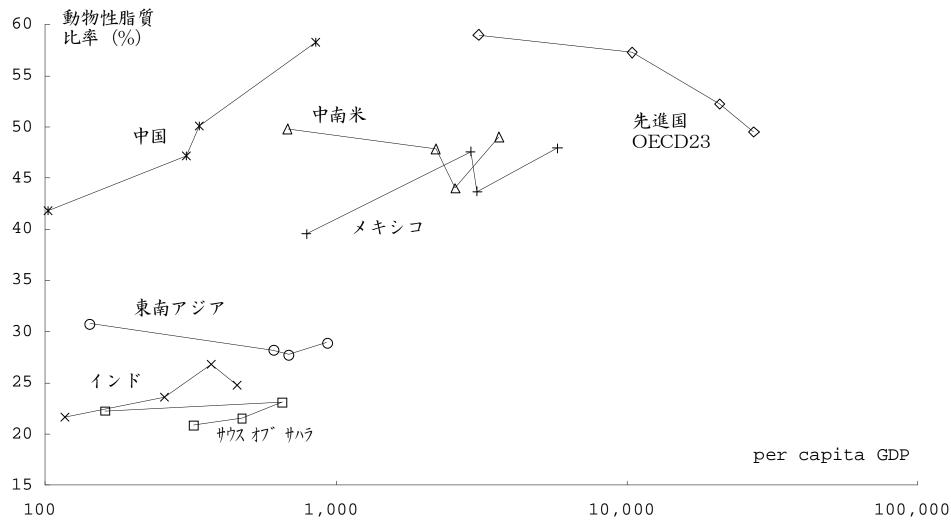


図15 供給熱量(飼料換算)とGDPの推移(1970-2000)



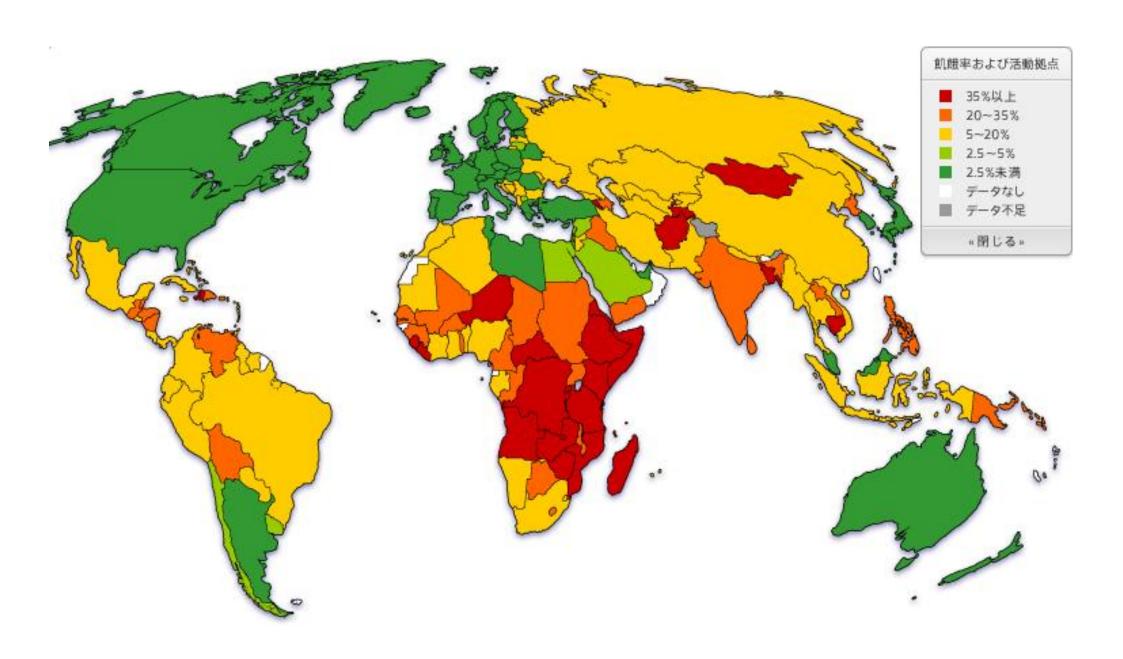
資料: UNSD, UNSD Statistical Database FAO, FAOSTAT

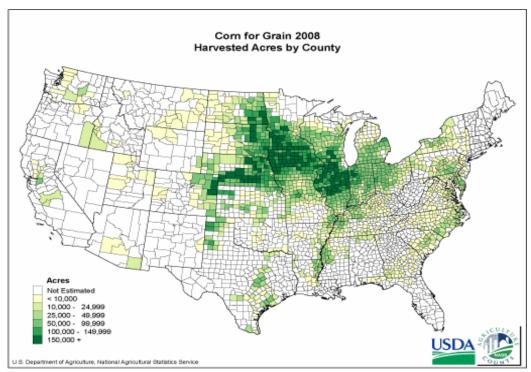
図16 動物性蛋白比率とGDPの推移(1970-2000)



資料: UNSD, UNSD Statistical Database FAO, FAOSTAT

図17 動物性脂質比率とGDPの推移(1970-2000)





資料: USDA, NASS の HP より転載.

 $http://www.nass.usda.gov/Charts_and_Maps/Crops_County/images/CR-HA08-RGBChor.gif$

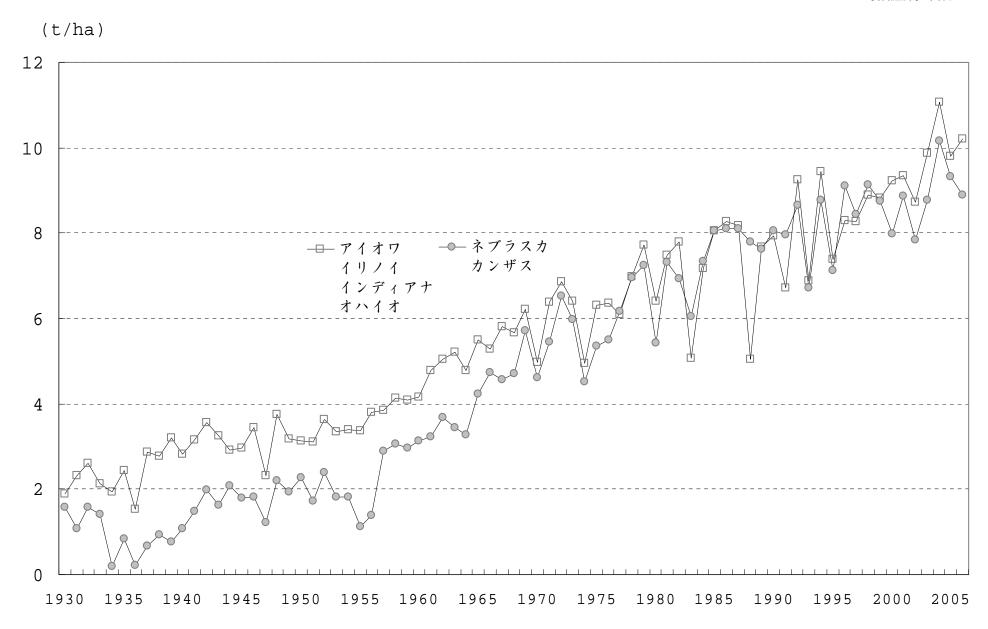
図19 米国のトウモロコシの生産地域



資料:USDA,米国農業センサスHPより転載

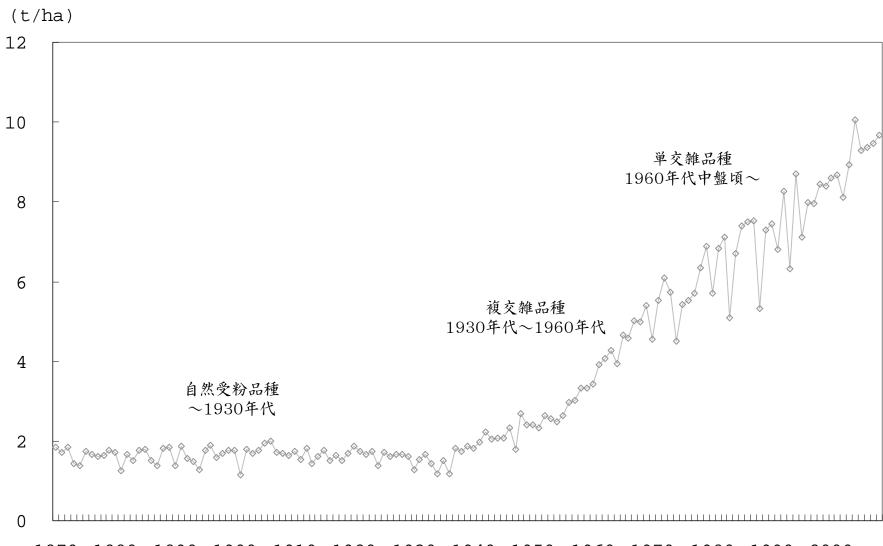
http://www.agcensus.usda.gov/Publications/2007/Online_Highlights/County_Profiles/index.asp

参考図 米国地図



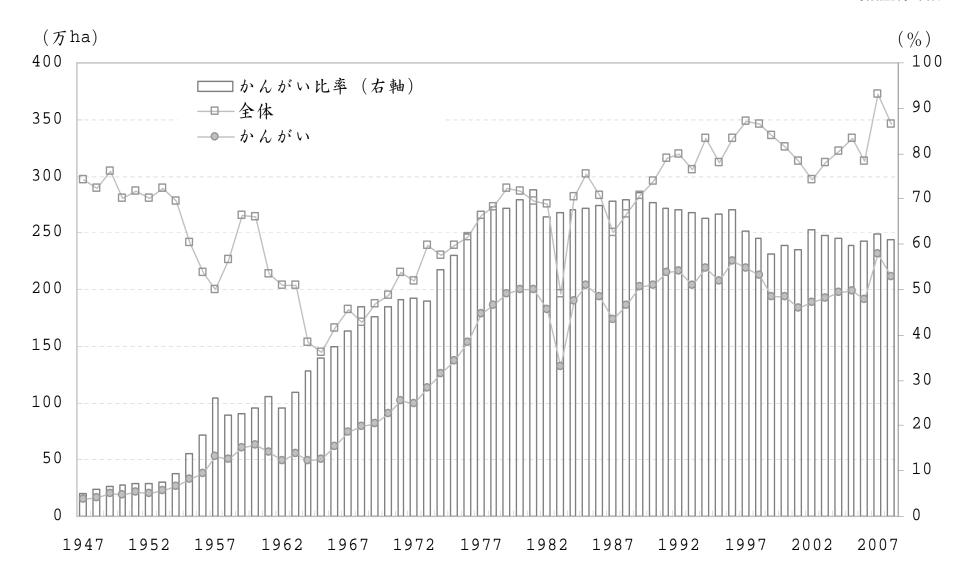
資料: USDA National Agricultural Statistics Service, Quick Stats

図20 コーンベルトにおけるとうもろこしの単収



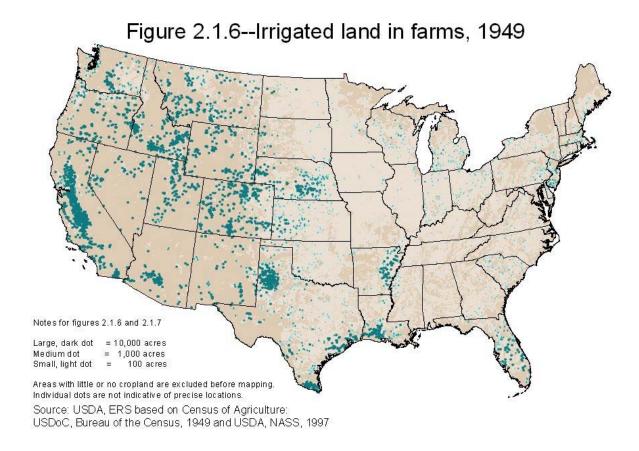
1870 1880 1890 1900 1910 1920 1930 1940 1950 1960 1970 1980 1990 2000 資料: USDA, Crop Production Historical Track Records, 2009

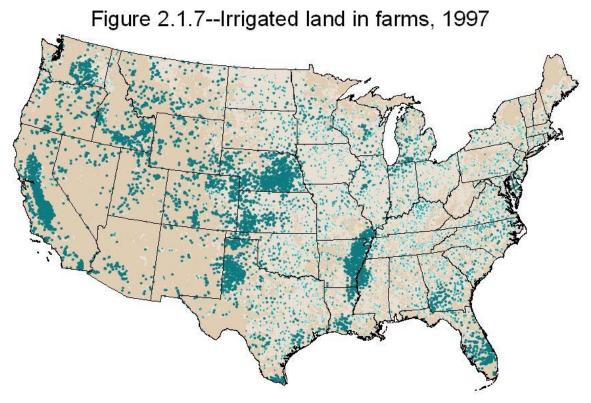
図21 トウモロコシの平均単収 (米国)



資料: USDA National Agricultural Statistics Service, Quick Stats

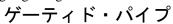
図22 トウモロコシの収穫面積 (ネブラスカ州)







資料: Hastings Irrigation Pipe Company の HP より転載 http://www.hipco-ne.com/images/gated.gif





資料:米国農務省のHPより転載.

http://www.nrcs.usda.gov/NEWS/thisweek/images/irrigationsmal.jpg

ディッチとサイフォン・チューブ

図 24 かんがい設備(1)





資料:米国地質調査所(USGS)のHPより転載

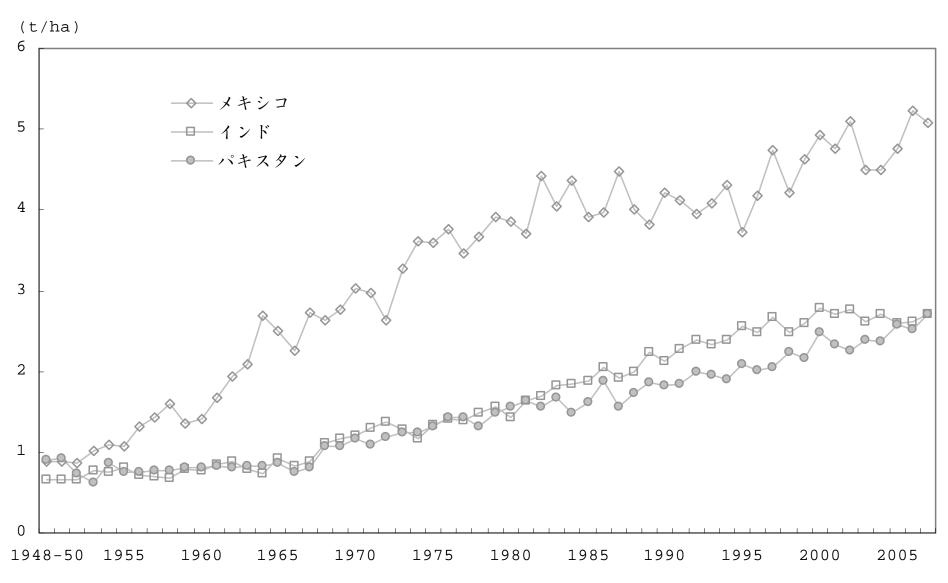
 $\bot: http://water.usgs.gov/ogw/gwrp/images/photos/cent_pivot_corn1.jpg$

 $\overline{\;\;\;}:\; http://water.usgs.gov/ogw/gwrp/images/photos/Slide2.jpg$

センターピボット

(上はネブラスカ, 下はカンザス)

図 25 かんがい設備(2)



資料: FAO, Statistics Division, World Crop and Livestock Statistics 1948-85.
FAO, FAOSTAT

図26 メキシコ、インド、パキスタンの小麦の単収

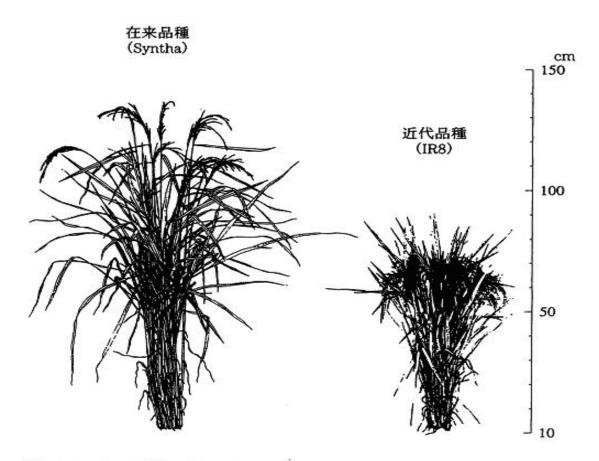


図 4-2 米の近代品種と在来品種の体型的比較

注) Synthaはインドネシア原産種で、IR5 との交配でインドネシアに普及した近代品種 Pelitaを生んだ。 出所) Dalrymple (1986, pp. 2 and 20)。

資料:速水佑次郎『開発経済学』(新版) 創文社, 2000, p.97より転載.

図 27 コメの高収量品種 (近代品種) と在来品種

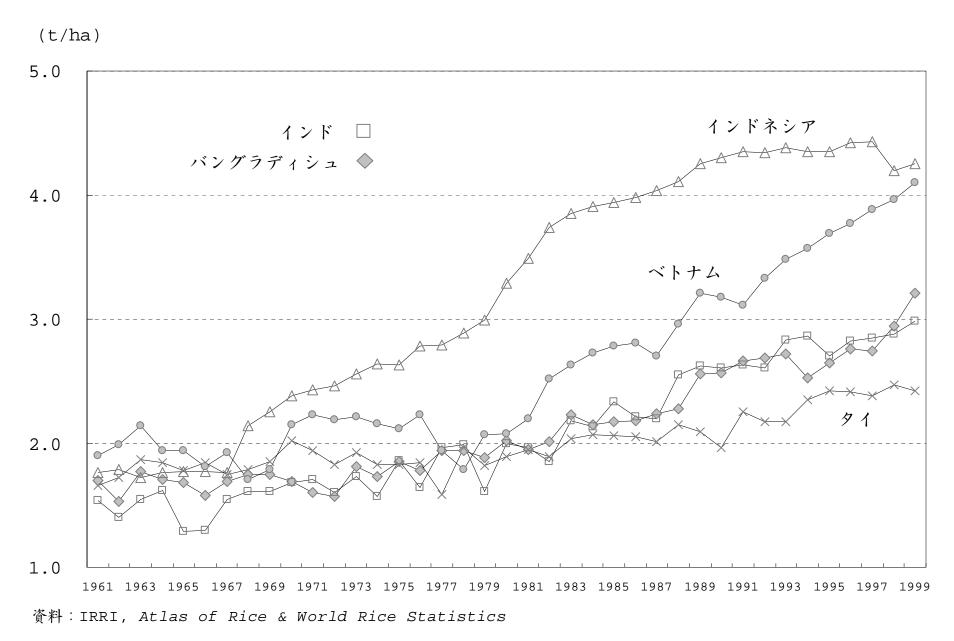
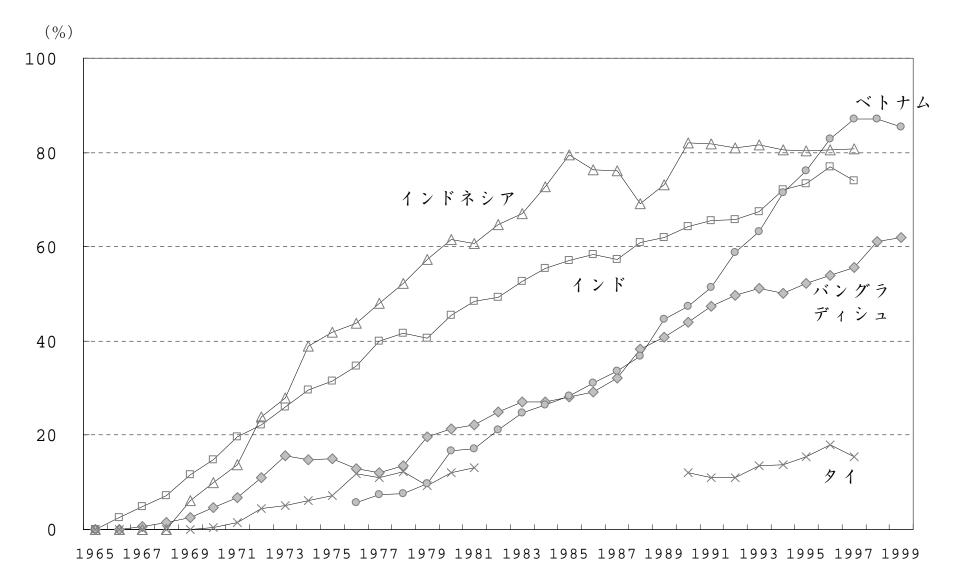
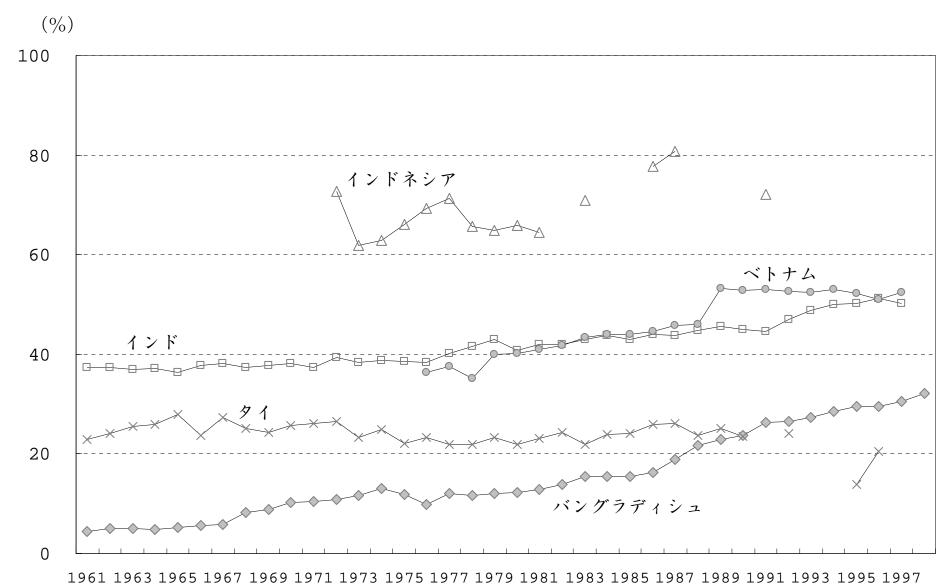


図28 アジアにおけるコメの単収



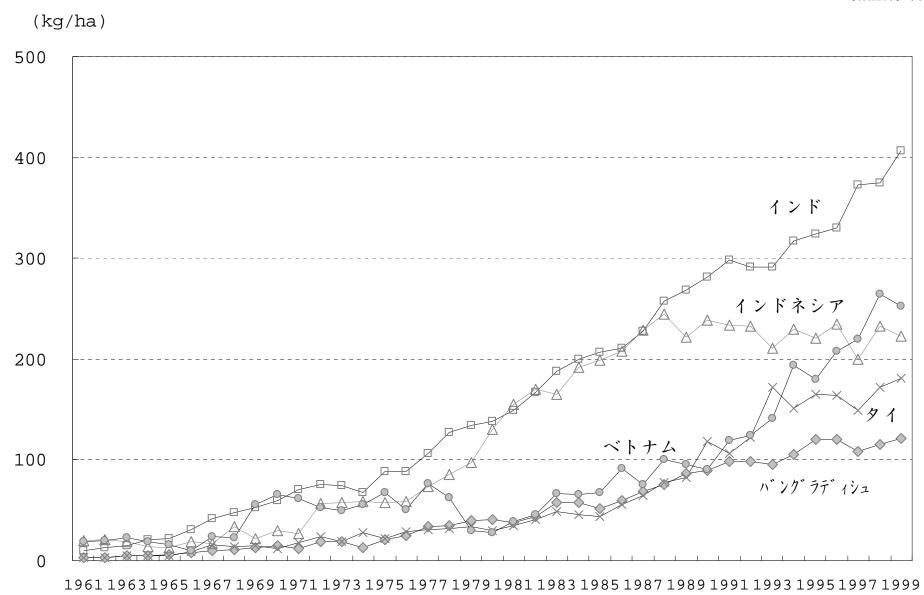
資料: IRRI, Atlas of Rice & World Rice Statistics

図29 アジアにおける近代品種の普及率 (コメ)



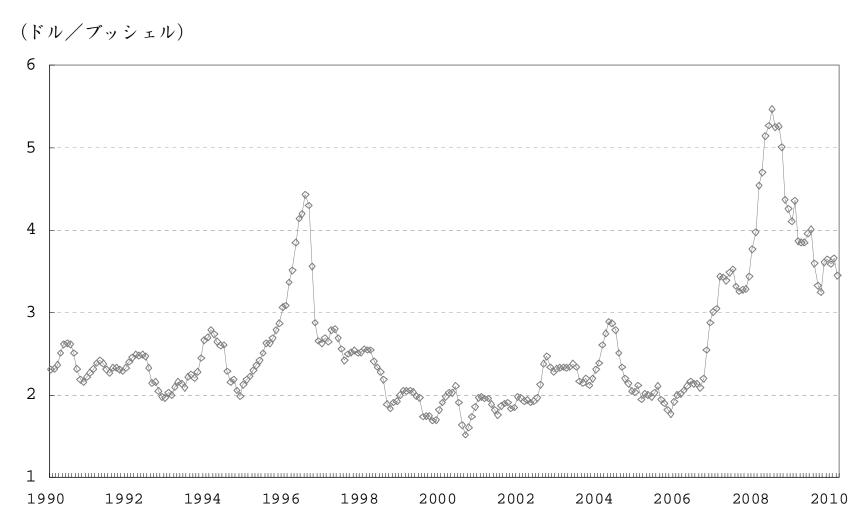
資料: IRRI, Atlas of Rice & World Rice Statistics

図30 作付面積に占めるかんがい面積の割合 (コメ)



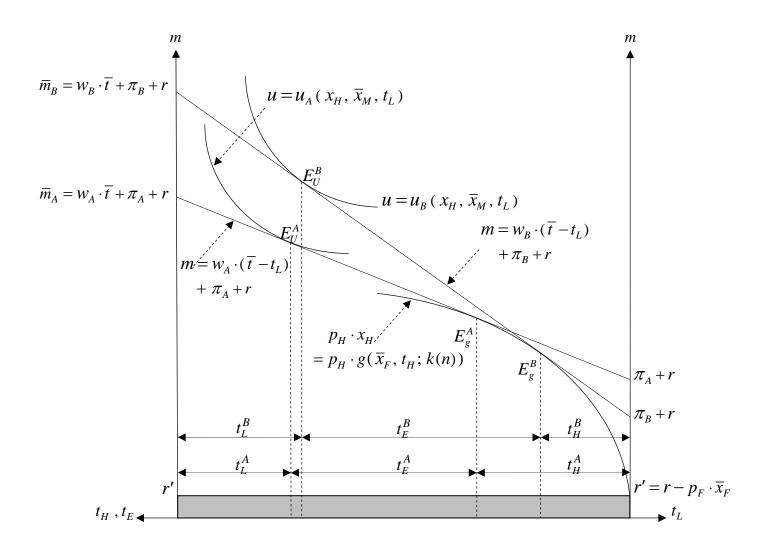
資料: IRRI, Atlas of Rice & World Rice Statistics

図31 作付面積当たり化学肥料使用量 (コメ)

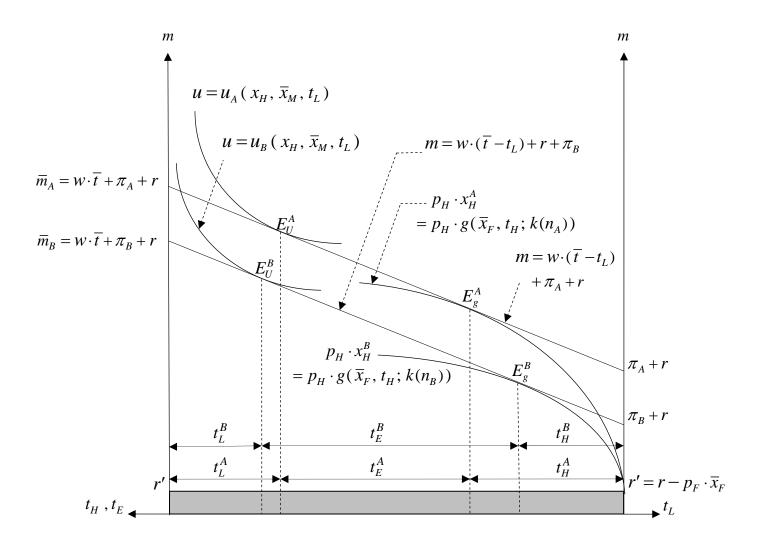


資料: USDA, ERS, Feed Grains Database: Yearbook Tables

図32 トウモロコシの農家平均受取価格 (米国)



補図1 賃金率wの効果: $w_A < w_B$



補図2 世帯規模nの効果: $n_A > n_B$